

はっほう

No. **82**
2026.10.23

議会だより



9月
定例会

海・里・山を体感！
SEA TO SUMMIT白神山地大会初開催！

- 9月定例会ダイジェスト 2ページ
- 町政を質す 一般質問 8名の議員が町の方針を問う 8ページ
- おらほの議員ってこんな人 若狭議員、福士議員、奈良議員が登場 18ページ

おらほの議員ってこんな人 第2回/4回

議会議員（12名）を紹介します。今回は議席番号4～6番の3名の登場です。



わか 若 狭 敏 春
(1期目)

ふる里を残しながら、町長が掲げる、誰でも活躍できる町、住よい町楽しい町づくりに貢献します。
いつも側に居てくれる愛犬エル君、癒してくれるポニーのカルビとサクラ、妻と2人で海産物店を営みながら日々過ごしています。



ふく 福 士 久 明
(1期目)

農業と県内一の製縄工場を有する秋田製縄をやっています。そして和牛と短角牛の牧場を夢見ています。
議員としては、どんな人にも、それぞれの価値観と生きる上での価値観がありますが、多くの人が笑顔になれる政策を考え、決断していくことだと考えます。



な 奈 良 聡 子
(3期目)

AIが暴走し、自分の頭でものを考える。そんなSFの世界が現実化し、人間がAIに追い越されるのは時間の問題となってきました。改めて生き方が問われ、人間にしかできない仕事や、人間らしく暮らせる場所が注目される時代がやってきたのです。八峰町にとっては絶好のチャンスです。豊かで創造的なまちづくりをいかに進めていくのか。それが今期の課題です。
◎バンド活動歴30数年（キーボード担当）。音楽、映画、料理、猫が好き。穏やかな性格のメス猫と暮らしています。消防第12分団団員。防災士。

※次回は、議席番号7～9番（腰山良悦議員、伊藤一八議員、皆川鉄也議員）を紹介します。

編集後記

9月定例会では、令和7年度決算をはじめ、補正予算や条例などについて審議しました。また、8人の議員が一般質問に立ち、それぞれの視点から、町のこれからや身近な課題について活発な議論が行われました。

議会で話し合われていることは、難しく感じるかもしれませんが、実は私たちの毎日の生活につながることであります。

議会だよりを通して、「こんなことも話し合っているんだ」と、少しでも議会を身近に感じていただければと思います。



(記 伊藤一八)

● 議会広報編集委員会
委員長 笠原吉範
副委員長 伊藤一八
委員 薩摩晃大
委員 若狭敏春
委員 福士久明

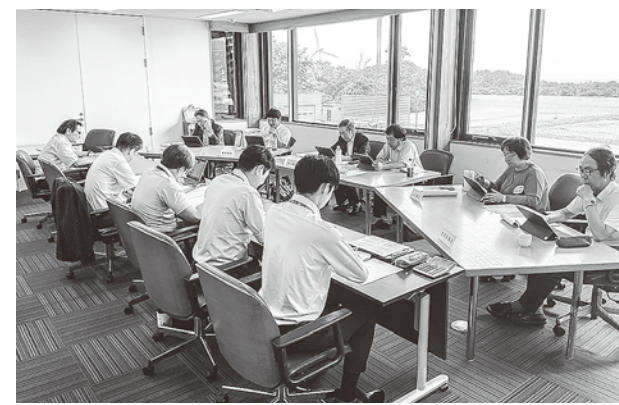
9月定例会

ダイジェスト

全議案等可決

9月定例会（9月1日～11日）では、令和7年度決算認定や、条例改正、補正予算など20議案を審議し、すべて認定・可決しました。また、陳情2件を採択しました。

報 告	補正予算	条 例
1件	5件	1件
	工事契約	決算認定
	1件	8件
	発 議	陳 情
	2件	2件



決算特別委員会 分科会の様子

条例制定

カスハラ防止条例制定で

就業環境を整備

議案の内容

国の労働施策推進法の一部改正により、民間企業・公的機関を問わず、カスハラ対策が義務化されたため、「八峰町カスタマーハラスメント及び不当行為等防止条例」を制定する。条例制定により、報告徴求・助言・指導・勧告・公表等ができるようになる。

議会から町へ（質疑）

質問 苦情申立てなのか、カスハラなのか、グレーゾーンに当たる事例にはどう対応するのか。

答弁 カスハラか否か、条例に定める要件に該当するかで判断する。必要に応じ委員会等を開き、判断・対応していく。

（全員賛成で可決）



10月1日から施行

デマンド型乗合有償運送

運行業務委託

質問 需要増による計上との説明だったが、これは、想定を超えた場合、その都度計上される仕組みなのか。

答弁 各月毎の経費等に対し、委託料として支出している。4月～7月期の前年比で約147%となり、今後も需要増加が見込まれることから想定される不足分を計上した。

ハタハタ館指定管理者選定委員会

質問 指定管理者の公募に踏み切る決断をした町長、担当課長の思いを聞きたい。

答弁 町長、担当課長の思いを聞きたい。

商工観光課長

町民のための施設として、公募であつてもなくても、条例で定められたハタハタ館の果たすべき役割を果たすことができる、それが最終的な目的。

堀内町長

民間ベースで考えた際、これまでの指定管理料は適正だったのか、本当に民間事業者がやるのか、示すことができるものかと思っている。重大な決断ではあったが、広く公募すること、その適切性をしっかりと示すことができると思っている。

質問 仮に、今回の公募にハタハタの里観光事業株式会社が、改めて応募するということがあり得るか。

答弁 応募するかは不明だが、民間企業であるため、応募する権利はあると考える。

（全員賛成で可決）

補正予算

令和8年度 一般会計補正予算(第4号)	
【補正予算（歳出）の概要】	
○デマンド型乗合有償運送運行業務委託料	628万8千円
○移動支援事業委託料	368万5千円
○放任果樹伐採業務委託料	576万4千円
○プレミアム付商品券発行事業補助金	1142万円
○水沢橋橋梁撤去工事（1工区）	1億1885万9千円
○公共土木施設災害復旧工事	9341万円
○林業施設災害復旧工事	509万9千円
○財政調整基金積立金	2億9900万円
※法の規定により、前年度実質収支の2分の1相当額を積立て。 (実質収支=R7歳入-R7歳出-R8に繰越しとなった額)	



指定管理者とは
町が設置した公
共施設の管理・運
営を代行する法人
等のこと。
ハタハタ館は現
在第3セクターの
ハタハタの里観光
事業(株)が指定管
理している。

陳 情

○非核三原則の堅持を求める意見書提出についての陳情書
(提出者 原水爆禁止能代・山本協議会)

委員長報告（総務民生常任委員会付託）
審議の結果、非核三原則の堅持については賛成するも、意見書の記載内容の一部に主観的な表現があることから、趣旨採択と決定した。

反対討論

富士 米国の要求に従った大軍拡や非核三原則の見直しを進める政権に対し、この地方から非核三原則を守る意見書を提出するべき。

(賛成多数で趣旨採択)
○地方財政の充実・強化を求める意見書提出に関する陳情について
(提出者 連合秋田能代地域協議会
(全員賛成で採択))

令和8年度 八峰町放任果樹伐採事業

柿の木等の伐採を行います

放任果樹（柿、栗など）がツキノワグマを集落に誘引する要因となっていることから、クマ出没抑制と人身被害未然防止のため放任果樹伐採事業を実施します。

対象となる樹木の条件

① 主に「柿」「栗」「クルミ」等クマを誘引する可能性のある果樹

② 集落、観光施設、社寺、耕作している農地からおおむね300m以内の場所にある果樹

③ 所有者による速やかな管理や伐採が困難な果樹

④ クマを誘引する恐れが高く、緊急に除去する必要がある果樹

※ただし、出荷用に栽培していた果樹は対象外となります。

✓ 所有者の同意に基づき、町が対象の放任果樹を伐採します。

✓ 費用負担はありません。

9月10日配布の放任果樹伐採事業のチラシ

全ての児童生徒を

スクールバス利用に

議案の内容

クマの出没が相次いでいることから、登下校時の児童生徒の安全確保を目的に、臨時的に全ての児童生徒をスクールバス利用対象とする。経費90万2千円を追加補正。

議会から町へ（質疑）

質問 今回は、2学期のクマ対策のみとのことだが、冬期についても、父兄の負担軽減のため今回同様の対応をとることはできないか。

答弁 あくまでクマ出没への対応。状況によっては、冬場でもバスの運行は継続したい。保護者の負担軽減については今後も検討。

質問 保護者からの意見にはどのようなものがあつたか。

答弁 調査の結果、峰浜小では対象者22名のうち8名がスクールバスを使用しないとの回答。「保護者が通勤時に送迎する」「今までより早くなったバスの時間に対応できない」といった意見があつた。

質問 説明会での意見を全ては取り入れられなかったとあるが、どのような意見か。

答弁 バス乗車場所を増やしてほしいという意見。導入には、始発を現行の午前7時より早める必要があるが、これ以上の繰り上げは困難。保護者の方にもご理解いただいた。

質問 冬眠しないクマもいることを考えると、

2学期のみを前提にするのではなく、通年全員を対象とすべきではないか。

答弁 現時点では2学期のみの予算計上。3学期以降については、状況等踏まえながら検討したい。

質問 バスの運転手について、健康診断や運転能力に関する情報は当局で持ち合わせているのか。

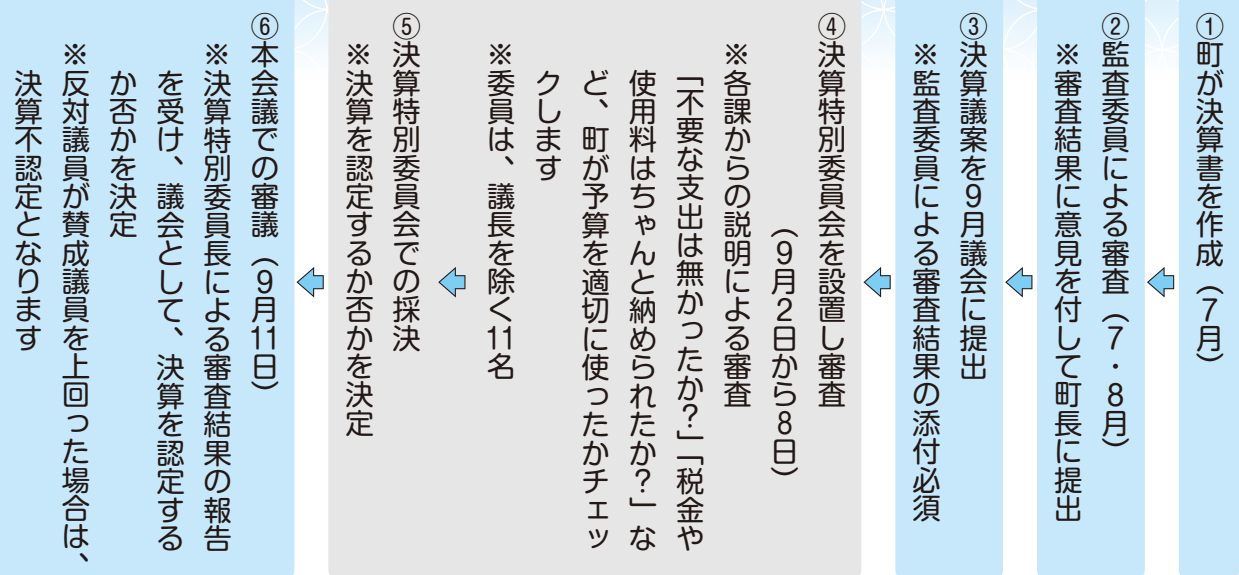
答弁 運転手の健康状態については、委託契約の際に仕様書にて規定し、委託会社が確認。書類については、当局では持ち合わせていない。

（全員賛成で可決）



スクールバス

令和7年度決算審査の流れ



決算認定反対理由 決算は全て認定されましたが、福士議員から次の反対討論がありました。

●一般会計

財政調整基金が近年に比べ多い。この基金を活用し物価高騰に苦しむ町民への支援があるべきだった。ハタハタ館の大規模改修等投資をしているが、入浴料の値上げにより、町民の健康と福祉につながらなかった。

●国民健康保険特別会計

未納により窓口負担が10割となると、受診控えが起こり病気の重篤化に繋がる。減免制度を周知し保険証を取り上げないような政策をすべき。国保税の複数年の滞納がある場合、消滅時効により5年で不納欠損とすべき。

●介護保険特別会計

年金額が低額な受給者からも普通徴収している。施設も高額で、入所できない。家族が介護するには仕事を辞めなければならない。高額年金受給者しか受けられないような制度に反対。

●後期高齢者医療特別会計

75歳以上の人口がピークに達している。国が老後を支えてやるべき。高齢者が安心して医療を受けられるようにするためにも、制度に反対する。

***不納欠損** 未納となっている税金などの内、納めてもらう見込みが立たないものを調定額から除くこと

決算委員会 付帯意見書提出

令和7年度の決算審査を行い、町に対し3件の付帯意見書が提出されました。

●ホームページの発信力強化を

ホームページは、リニューアル後も扱いにくいことから、目的の情報へ直にアクセスできるよう改善し、行政サービスの最新情報の提供に努めること。

●健康診査受診率の向上対策を

保健衛生委員の活動が、今年度で終了となるため、この後の集団健康診査受診率の低下が懸念される。町民全体の健診（検診）の受診状況を把握するとともに、受診率の向上対策に努めること。

●私債権の処分等を

長年滞納のままの町有土地建物貸付料、高齢者住宅整備資金、町営住宅使用料や水道料金など諸般の理由により、収納が見込めない私債権が、各部署にて散見される。町の債権の管理の適正化を図るためにも、債権放棄も含めた事務処理を早急に進めること。



賛否が分かれた議案・陳情の採決結果

●その他の議案等はすべて全員賛成で可決・認定されました。

○：賛成 ●：反対 欠：欠席

議員氏名	薩摩晃大	山本昌子	菊地 薫	若狭敏春	福士久明	奈良聡子	腰山良悦	伊藤一八	皆川鉄也	須藤正人	笠原吉範	山本優人	議決結果
令和7年度八峰町一般会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	議長は採決に加わりません	認定
令和7年度八峰町国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○		認定
令和7年度八峰町介護保険事業勘定特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○		認定
令和7年度八峰町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○		認定
非核三原則の堅持を求める意見書提出についての陳情書	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○		趣旨採択

7年度決算 全て認定

特別委員会で 4日間にわたり審査

町長から提出された、令和7年度一般会計・各特別会計6件及び企業会計2件の決算を、決算特別委員会を設置し4日間にわたり審査しました。

委員会（議員）から町へ質問

くらし・防災・財政

町主体で、交通安全に深く関わるべき

問 交通安全協会各支部の負担が多いように見える。補助金の増額を検討しても良いのでは。町が主体となり、深く関わるべき。

答 町補助金の他に本会からの交付金もある。また各支部総会にて、要望等を吸い上げている。「交通安全は家庭から」と言われているとおり、地域が主体となって行うものと認識している。町はそれに対する支援・補助する関わり方となる。

消防団再編の今後

問 消防団再編のスケジュールは。

農業・林業

“花の家”利用促進を

問 花の家の使用実績が年間1件のみ。誰でも借りれるなら、幅広く町民へPRしてはどうか。

答 誰でも活用出来る施設。広く活用していたら、できるだけよう、広報等に掲載して周知する。

クマの出没は減少しているのか

問 今年のクマの目撃情報が少ないと感じている。目撃しても事情聴取が面倒という理由で通報しない人も多いのではないのか。

答 捕獲頭数は現在14頭。目撃情報も前年度より少ない。クマダスアプリの活用を広報等で引き続き周知していきたい。

峰浜培養の修繕は補助金対応なのか

問 同じ第3セクターのハタハタ館は全額町負担だが、峰浜培養は補助金という形をとっているのはなぜか。

答 建物の所有・登記が誰かというところで決まる。ハタハタ館の所有は町のため町が全額負担。峰浜培養の第一工場は、会社所有のため、町は2/3の補助金を交付した。第二工場は町所有のため、修繕は町負担となる。

答 最短9年4月1日。団員減少が進む中、再編による減少がないよう、団員の意見を反映させたい。合併の際は、分団への不利益を防ぐため、5年程度の経過措置を設けたい。

再編後、消防小屋は無くなるのか

問 地域住民の意見を反映させた再編でなければ、住民の理解は得られず、地域から消防小屋が無くなると不安感が増すのでは。

答 地域住民の一員である消防団員から意見を得たい。再編後すぐに消防小屋を撤去することはなく、一部は地域の倉庫等として活用できるような調整を行いたい。



第12分団(中浜)消防小屋

ふるさと納税減少の要因は

問 企業版ふるさと納税、ふるさと応援基金ともに寄附額が減っている要因は。

答 季節商品が人気のため、ポイント制が無くなったことにより、寄附のピークが前倒しとなったことが痛手。企業版は、計画に基づいて実施し、令和6年

道路・町営住宅

ふれあい橋は継続するのか

問 利用者数と維持費軽減策はあるか。エレベーターの維持費への補助金活用の可能性は。

答 設置カメラで確認した範囲で約20人/日。維持費軽減のため8年度、自動ドアから手動ドアへの切り替えを予定。エレベーターを含む維持管理費への補助金活用については、他部局の所管事業も含め模索したい。



ふれあい橋

町営住宅滞納へ対応

問 町営住宅未納額の今後の対応は。

答 現在住んでいる方へは、分納等にて完納するよう交渉している。未納者に対し、連帯保証人への連絡や法的措置の対応がとれるよう体制づくりを行う。

度は計画最終年度ということで寄附額が増加したものの、その反動もあり7年度は減少した。

貸付料の滞納額内訳は

問 町有土地建物貸付料の滞納の内訳と今後の納付見通しは。また、納付の見込みのないものは不納欠損処分をすべきでは。

答 全部で13件。分納計画の連絡がついてるものは1件。私債権であるため、債権放棄の議決を経ないと欠損処分できず、倒産等の処分確定といった根拠を得た際には、議会に諮りたい。

福祉・保健

保健衛生委員の廃止、今後の受診は

問 保健衛生委員の廃止に伴い、町の健診の受診方法はどのようなのか。

答 現時点の案は、前年度受診者への町からの通知。それ以外の方はウェブか電話での申し込みを想定している。

税金

滞納の収納率が上がった

問 滞納の収納率が上がっている。滞納整理はどのように行っているのか。

答 未納の方へ納期限から20日で督促状を送付。随時電話や窓口で納税相談を受け付け、分納を含め対応。

商工観光

モンベルの店舗設立は

問 モンベルとの連携協定により、町はどうしたいと考えているのか。他市町村と同様に店舗設立を目指していくのか。

答 新たに店舗を建てる計画は無い。ハタハタ館の売店にモンベル商品を置くことを検討したが、物品をリリースすることなどを考慮すると採算がとれず、慎重にならざるを得ない。

ブランドゴルフ活発に

問 バンガローとブランドゴルフ場の利用状況は。また、ゴルフのエリアはどこまでか。

答 バンガローは年間約700人、ゴルフは2089人。ゴルフは活動が活発になり、ステージ前まで範囲を拡大。町の協会は、認定コースの申請を検討しているが、本来子どもの遊ぶ場所のため慎重に対応する。

教育

部活動指導員の登録は

問 テニス部・男子バスケット部のみ部活指導員報酬の支出があるが、他の部活動には指導員はいないのか。

答 外部コーチはいるが、部活動指導員としての登録は2名のみ。外部コーチは基本的にボランティア。指導員に登録したいが、勤務先の理解と許可が必要となり、進んでいない。



みながわ 鉄也 議員

皆川 新町誕生から20周年の節目を迎え、峰浜庁舎の火災や学校再編、度重なる自然災害、クマの異常出没、新型コロナウイルス対策など、その時々々の社会情勢を見極めながら施策を展開してきた。町長の任期も残り数か月となる中、この4年間の行政運営の実績と課題をどう捉えているか。

また、先の町政報告会で示した、二期目への挑戦について、改めて決意を伺うとともに、農業・福祉・教育など課題が山積する中、町長がよく口にする「一丁目一番地」として、最も重

町長 人口減少対策を最重要課題に

4年間の総括と二期目への決意は



先進地視察（右：町長）

町長 令和5年の豪雨災害では、最大9日間断水した地域もあったが、昨年度までに、ほぼ全ての被災箇所での復旧工事を終えた。

旧峰浜庁舎跡地の定住促進住宅は満室となり、結婚や出産につながった世帯もある。また、風力発電を活用した電力の地産地消や、保育料や給食費の完全無償化など子育て支援の充実に努めた。

財政面では、財政課を創設するとともに、基金残高を、事務事業の見直しにより30億円超まで回復した。一方、人口減少には歯止めがかからず、高齢化率も50%を超えている。

要な施策をどう捉えているか。

「一丁目一番地」は人口減少対策であり、まずは仕事の確保に向けて、基幹産業である農林水産業と観光業の強化に取り組む。子育て支援のさらなる充実、再エネの民間企業への普及を図っていく。新たな総合計画の実現に向け、成果を得るための責任を自ら果たすため、再度町民の選択を受ける覚悟である。

*一丁目一番地
議会や行政において真っ先に取り組むべき政策等を指す際によく使われる言葉。

令和8年度町長選挙日程

告示日	令和8年12月8日(火)
投開票	令和8年12月13日(日)
任期満了	令和9年1月8日(金)



議事録はこちら

掲載している内容は、広報編集委員会で要約・校正したものです。全文が掲載された議事録はホームページでご覧いただけます。9月定例会の会議録については作成中です。完成後すぐに掲載いたします。

ここが聞きたい

ただ 町政を質す!!

8人の議員が一般質問

9月定例会では8人の議員が町政について質問しました。

p9 皆川 鉄也 議員

1. 任期4年間の実績と課題について

p10 笠原 吉範 議員

1. 高齢者の投票支援について
2. 旧峰浜庁舎跡地の利活用について

p11 山本 昌子 議員

1. 防災体制の実効性向上に向けた課題について

p12 若狭 敏春 議員

1. ハタハタ館の運営状況の評価と今後の取組について
2. ふるさと納税の現状分析と今後の取組について

p13 福士 久明 議員

1. 難聴対策の具体的実施計画は
2. 災害避難場所に空調設備を

p14 薩摩 晃大 議員

1. 峰浜培養の現状認識及び今後の支援について

p15 奈良 聡子 議員

1. 除排雪作業の担い手の確保について

p16 伊藤 一八 議員

1. 小学校統合後の旧校舎の利活用について



大勢の方が傍聴に来場されました。



笠原 吉範 議員

移動投票所が有効では

町長 移動支援の
周知を図る

笠原

4月19日の町議会議員選挙の最終投票率は、合併以来過去最低となった。その要因は、高齢化に加え投票所の減少と、デマンドタクシーや支援バスなどの移動支援が、うまく機能しなかったのではないかと考える。高齢者の投票支援には、バスを利用した移動投票所が有効では。

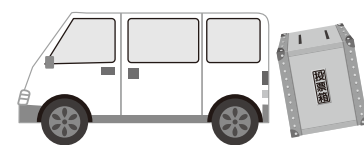
町長

高齢化が加速している本町にとって、高齢者の投票率向上の対策が課題である。町では有権者の移動支援の充実を図るため、投票日当日の移動支援バスに加え、期日前投票及び投票日当日に、ドアtoドアの移動

支援を実施してきた。県内自治体における移動投票所は、一部自治体で実施しており一定の効果は認められるものの、投票率の向上までには至っていないと聞いている。高齢者の多い本町においては、投票所への移動支援が有効と考えており、デマンド型移動支援の周知徹底を図り、投票率の向上に努めていく。

町議会議員選挙 投票率	
投票日	投票率
2014年4月20日	84.48%
2018年4月15日	77.98%
2022年4月17日	無投票
2026年4月19日	68.48%(過去最低)

***移動投票所**
移動困難な人のため、投票箱などを載せた車両が巡回する投票所。



旧峰浜庁舎跡地

利活用を

町長 新たな

施設整備が必要

笠原

旧峰浜庁舎跡地に整備された定住促進住宅が好評で、満室だと聞いてい



定住促進住宅裏に広がる旧峰浜庁舎跡地

る。津波や土砂災害のリスクが極めて低く、子ども園や小中学校、また能代にも近いことから、宅地分譲や建売住宅などを検討し、若者や子育て世代の移住・定住の促進を。

町長

定住促進住宅は完成後、ほどなく満室となり、婚姻4組、出生2人と、大きな効果が出ている。また、入居者を対象としたアンケート調査では、概ね好評を得ていることから、新たな施設整備が必要であると感じている。

住環境整備は、人口減少対策をはじめ、町づくりを促進する上で重要であると考え、整備のあり方を検討していく。

避難訓練で見えた課題解消を

町長 災害に強い

町づくりを推進する

山本

避難訓練（八森第1）では、一時避難場所が吹きさらしで、長時間の滞在が困難であった。街灯のない夜間に、安全に避難出来ると想定しているのか。

また、五能線の運行停止時など、踏切が下りたままになることが考えられる。自動車避難が増加する中、避難場所の町道八森山麓線へ到達出来ない事態が生じるのではないかと。国道101号通行不能時の代替路として、町道八森山麓線と県道63号線を接続する計画があったと聞いているが、整備計画の今後の展望は。

町長

災害時には直ちに避難所を設営するため、一時避難場所への長時間の滞在は想定していない。

主要な避難ルートに踏切が存在することは、大きな課題である。八森地区の地理的条件から踏切横断は避けられないため、原則として徒歩での避難を呼びかけている。

一方、自動車避難が必須となる高齢者や要配慮者等の移動については、地域の特性を勘案し、踏切遮断時における代替ルートを、役場や鹿の浦展望台にするなど、安全で迅速な避難体制の構築に努める。

また、津波浸水想定区域を通る国道の代替路線として、町道八森山麓線の延伸は重要であると認識している。しかし、財政状況等を踏まえると町単独での事業化は、現時点においては難しい。引き続き国や県に対して要望活動を行い、事業化に向けて取り組んでいく。

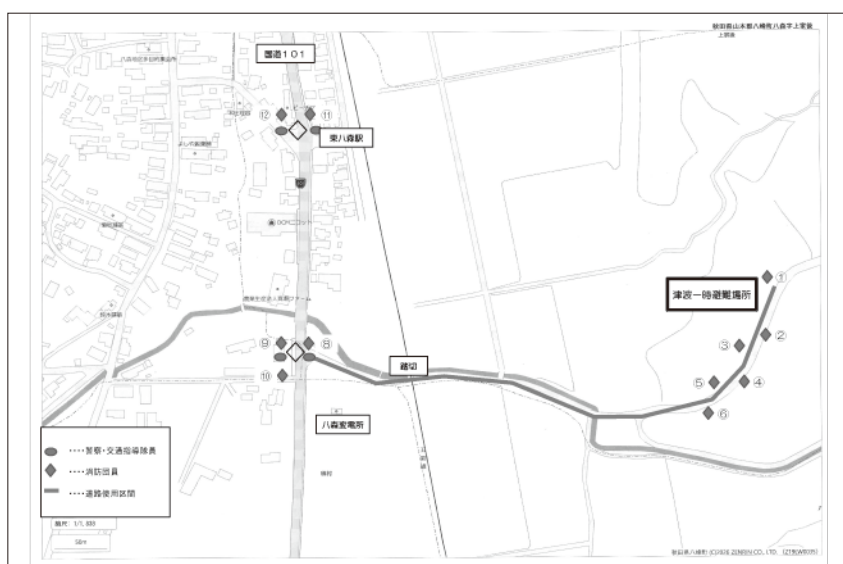
近年頻発化する自然災害に対し、災害発生時においても住民生活に深刻な影響を生じさせないように、災害に強い町づくりを推進していく。



山本 昌子 議員



避難訓練の様子（八森第1）



避難訓練チラシ等に掲載の地図

※このほか防災計画等の更新、避難物資の分散保管と備蓄の拡充、自主防災組織の現状と課題などについて質問。

***町道八森山麓線**
通称ビューシーライン

八峰町防災ハザードマップ↓





ふく し きゅうめい
福士 久明 議員

福士

難聴が40代から始まるのに対し、フレイル予防事業は何歳からか。

町長

フレイル予防事業は今年度3回開催予定。1回目はファガスで11月に開催する。新たにイヤーフレイル対策として機器を用いた難聴機能の測定も予定している。

福士

難聴は高齢者の認知機能に影響あり、補聴器を使うと難聴機能や認知機能の低下が抑制されるとある。*フレイル予防事業の令和8年度の事業計画に難聴対策はあるか。

町長

来年度に向けて準備

難聴対策の

具体的計画は

町長

7月末時点で入浴者数約2万5千人（前年比16%増）、売上高約5150万円（同5・2%増）、当期純利益約522万円となり、成果が現れ始めている。新メニュー開発は国等の支援を活用し継続する。秋田音

若狭

経営改善や東京ステーションホテル監修の新メニューを評価する。列車到着時に秋田音頭を流す、仮設ステージでのイベントなどあきた白神駅周辺のにぎわい創出と、館長不在の管理体制の課題に町はどう取り組むのか。

町長

体制強化と
設備更新に取り組む

ハタハタ館の

管理体制は



わか さ とし はる
若狭 敏春 議員

頭は、JRから町の要望を受けて協議したいとの回答を得ており、ステージも整備手法を含め慎重に検討する。現場責任者の確保や組織体制の強化、設備老朽化が課題であり、指定管理者と連携し持続可能な運営につなげる。



あきた白神駅

一次産業品の

返礼品拡充を

町長

新商品開発の
経費を支援

若狭

一次産業品や加工品の返礼品は伸びず余地がある。加工に挑戦する事業者を増やすため、設備整備の負担などにどう支援するのか。

福祉保健課長

65歳未満でも、幅広い対応を考えている。

福士

補聴器購入の補助は令和9年度予算にどのように計上するのか。

町長

補聴器助成は、能代市内の事業者と来年度に向けて準備を進める。

*フレイル

加齢に伴い、心身の活力が低下した、要介護一歩手前の状態。町では、健診や教室などの予防対策事業を実施。



フレイル予防講座

町長

本町は季節性の高い返礼品への依存度が高く、事業者の生産・加工体制に限界がある。今年度は専門の係を設置し、4月8月の寄付額は過去最高の令和6年度同期比で約200%となった。特産品による新商品開発を進め、10月から約20点を追加出品予定である。新商品開発や通年提供できる返礼品に必要な経費への支援に取り組み、加工場整備は国・県の補助金活用を含め検討する。

若狭

冷凍冷蔵設備の故障や急な入荷にも迅速に対応できる支援制度を。

企画政策課長

農林水産や6次産業化の補助事業（最大1/2）へ誘導し、該当しない経費は来年度に向け検討する。修繕支援も検討するが、補助金は手続きに時間を要する。



八峰町ふるさと納税
返礼品カタログ

八峰町ふるさと納税



災害避難所に

空調設備を

町長

財政的に困難

福士

猛暑での避難生活は想像を絶する。文科省は、空調設備を整備した自治体への、「空調設備整備臨時特例交付金」を打ち出した。今必要とされているのは、避難所の空調設備ではないか。

町長

国は避難所になる小中学校の体育館への空調設置完了率100%を目標とし、計画を前倒しする方針が出されたが、断

熱性確保が必須である。試算した結果、1校当たり最大2億7千万円と見込まれ、財政的に難しい。国や県に機会を見て支援を働きかけていく。



八森体育館における避難所設営訓練



な ら さとこ
奈良 聡子 議員

奈良 高齢者にとって除排雪作業の負担は重く、雪の多い冬は過酷である。
*社協によると、「軽度生活援助事業」における除排雪の利用件数は、令和7年度は5年度の約2・5倍となっている。依頼は、降雪期に集中すると思われるが、援助を必要とする高齢者に対し、作業の担い手は十分に足りているのか。社協によると、今後増加が見込まれる作業の依頼に応じられるのが課題となっているようだ。
能代市では、作業の担い手としてシルバー人材の他に、自治会・町内会・個人などを毎年募

町長 チラシ募集などで
対応

除排雪の担い手確保を

町長 令和7年度は、町内農家数の減少により、ホダ生産本数は前年比87%となった。一方、県外生産者への供給増加により、総生産本数は前年を10万本上回った。
しかし、光熱費等の高騰、ホダ生産目標に届かなかったこと、高温障害による収穫量の減少

薩摩 峰浜培養は設立以来、菌床しいたけ栽培を支え、地域産業の振興や雇用の確保に役割を果たしてきたが、生産者の減少や高齢化、光熱費・資材価格の高騰により、大きな岐路に立っている。町は峰浜培養の役割と課題、経営実態をどのように認識しているか。

町長 双方に適切な支援を

峰浜培養の経営と 今後の支援



さつ ま こうだい
薩摩 晃大 議員

により、約1900万円の赤字決算となった。菌床しいたけは、町の大事な特産品であり、今後も農家と峰浜培養の双方に適切な支援を行うとともに、峰浜培養には経営の健全化につながる取り組みを求めていく。



峰浜培養(株)

ナラ材おが粉製造の 事業化は

町長 可能性を検討

薩摩 光熱費、人件費の抑制が困難な中、農家のコスト縮減の余地は、菌床ホダの価格にあると考える。峰浜培養は、おが粉を県外から仕入れているが、町内や近隣で調達できれば、輸送費を含めたコストの縮減に繋が

集しており、市と委託契約を結び、作業時に委託料を受け取る仕組みで行っている。これを参考に、担い手を増やし、余裕のある体制を構築すべきでは。

町長 社協から、降雪量の多い年は、出勤回数が増加し、作業員の確保や調整に苦労するため、作業員募集のチラシを全戸配布するなど、担い手の確保に努めていると聞いている。

能代市の事例については把握しているが、町では自治会等への「小型除雪機貸付事業」を実施し、各自治会が高齢者等の除排雪を行っている。社協においても、自治会への除雪用物品購入費や機械燃料代の一部助成をしている。
今後もうこうした事業を周知しながら、地域全体での除排雪作業につなげ、担い手不足の解消を図っていく。

軽度生活援助事業

高齢者世帯等の、除草や除雪などの軽作業を1回1時間あたり100円でシルバー人材センターなどが請け負う。

小型除雪機貸付事業

地域支え合い活動支援事業。高齢者宅の除雪等を行う自治会を対象に、町が所有する小型除雪機等を無料で貸し出す。

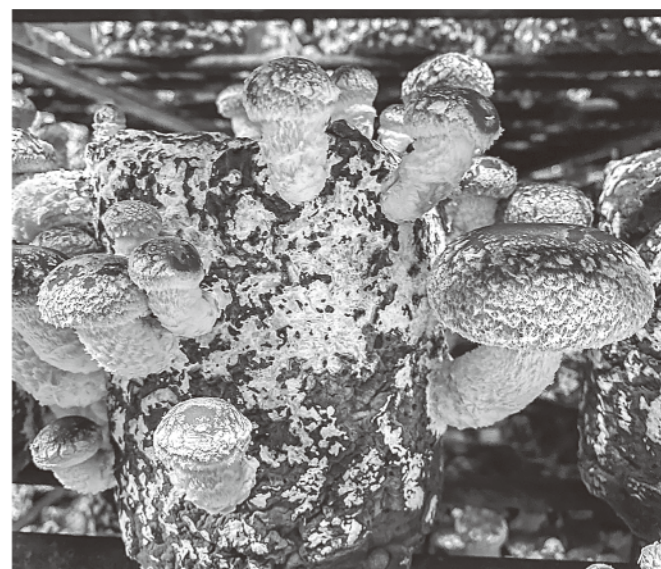
*社会福祉協議会



貸し出した小型除雪機



自治会による除雪作業



シイタケの生えた菌床ホダ

る。令和7年3月定例会で答弁のあった、ナラ材を活用したおが粉製造工場の建設を含む事業化について、その後の検討状況と進捗は。
町長 以前の調査で、峰浜地区の広葉樹に約25年分の材積が判明し、県や関係機関等と事業の実現性について協議してきた。しかし、路網整備への多額の予算計上や採算性の確保などの課題があるほか、伐採による災害の発生が懸念される。
町内産のおが粉は、コストダウンだけでなく、しいたけのブランド化にも繋がるため、国の補助事業などの情報収集に努め、事業化の可能性を探っていく。

菌床ホダとおが粉

ホダはおが粉と栄養分を混ぜて作られ、使用するおが粉は広葉樹のものに限られる。



伊藤 一八 議員
いとう かずや

八森小、閉校後の 利活用

町長 統合前から準備を
進める

伊藤

令和10年4月に小学校が統合し、新たな学校が開校する。統合により、八森小は、学校施設としての役割を終えることになる。

統合後に使わなくなった施設をどうするかではなく、統合前から、これまで地域と共に歩んできた学校を、地域の財産としてこれからどう活かしていくのかという視点が重要と考える。校舎や体育館、グラウンドなどの施設の現状を整理し、どのような活用が可能なのか検討を進め、行政・地域住民・民間事業者と一緒に将来の姿を考えていくことで、新しい地域の拠点

が生まれるきっかけになると考えるが。

町長

これまでも学校の統合を行っている。廃校舎となった施設については、具体的な活用を見い出せなかったことから、防災上の避難施設としての機能を考慮し、旧八森小は全て、旧岩館・旧堀川小は体育館部分を残し、校舎は解体に至っている。旧八森中においては、校舎を社協が、体育館は八森体育館として利用している。これまでの経験を生かし、統合前から準備を進め、まずは年度内に庁舎内において検討を行う。

伊藤

特定の人だけが利用するのではなく、学校だからこそ持っている広さを活かし、様々な目的で利用出来れば1つの施設から新しい交流が生まれ、多世代が集まり交流できる地域の拠点になるのでは。

総務課長

庁舎内で検討後、住民アンケートも考えている。その中で住民から出てきた意見を集約して利活用検討委員会を立ち上げ、方向性を考えたい。また、利活用については、町内事業者を優先して意見を伺い、前向きに進めていきたい。

*社会福祉協議会

議会全員協議会から

8月25日（火）に開催され、2件の協議と3件の報告を受けました。今回は協議の内容をピックアップして掲載します。

【協議1】 カスタマーハラスメント 及び不当要求行為等防止 条例制定について

町からの説明

10月1日からカスタハラ対策が義務化されることに伴い、職員の就業環境を保護するため、防止条例を制定したい。今後、不当要求や精神的攻撃（居座りや長時間の電話等）に対応する指針やマニュアルの整備、相談窓口の設置などを進めていく。

議員から町へ（質疑・意見）

問 職員が実際に遭っている被害について、調査や記録はあるのか。

答 職員へ匿名アンケートを実施し、55名から回答を得た。その中にはカスタハラと感ずる事例が数件みられた。

問 トラブルが発生し、カスタハラと認定された場合の対応は。個人名を含めて特定・公表するのか。

答 職員の承諾を得た上で、事案の発生年月日や内容を公表し、行為者本人へ警告文を出す。ただし、個人情報保護条例を優先し、氏名等の公表は控える。

【協議2】

プレミアム付き商品券 発行事業について

町からの説明

物価高騰の影響が続く中、町民生活の下支えを図るとともに、町内での消費を促し、事業者の売上向上等に繋げるため実施する。例年通り、商工会へ補助金を交付し、プレミアム率20%、1セット1万円（1万2千円分）の商品券を5千セット、10月上旬から発行する予定。

議員から町へ（質疑・意見）

問 事業がマンネリ化している懸念がある。プレミアム率を30%に引き上げたり、高齢者や低所得者に、無償配布するなどの見直しはできないか。

答 本事業は、特定の店舗支援や生活困窮者支援ではなく、地域全体の消費喚起を目的としている。プレミアム率や発行枚数は、町費負担を考慮するとベストな規模と考えている。

問 買い物物の利便性から、使える店舗がホームセンターや薬局などの大型資本に偏っている。

答 この事業の継続は、本町に地域のためなのか。過去のアンケートでは、利用者の75%以上が60歳以上で、一定の事業効果はあると分析している。国からの補助がある以上は、継続すべきとの声もあり、町内での消費活動を留める効果を期待している。



今月の表紙 SEA TO SUMMIT (シー・トゥー・サミット)



モンベルなどが提唱する環境スポーツイベント「SEA TO SUMMIT」が白神エリアで初開催され、県内外から180人が参加しました。町からは町長をはじめ、山本優人議長と山本昌子議員の2名も選手としてエントリー。白神の自然を全身で体感しました。

12月議会定例会お知らせ

会期（予定）

12月2日（水）	本会議1日目	行政報告	議案審議ほか
12月3日（木）	本会議2日目	一般質問	※休会の場合あり
12月4日（金）	本会議3日目	一般質問	

※開会は10時からです。終了時間は議案数、一般質問者数、進行等によるため未定です。

※議会では町民の生活に直結した重要な問題を審議しています。どなたでも傍聴できますので、お気軽にお越しください。また、団体での傍聴を希望する場合は、議会事務局へご連絡ください。

※傍聴は、本会議場で受け付けています。
(問合せ先：議会事務局 76-4607)



令和9年度で閉校する八森小学校